

教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education

発行日 2003年 7月31日
発行所 教育システム情報学会
発行者 岡本敏雄
〒661-8520 尼崎市南塚口町7-29-1
園田学園女子大学情報教育センター内
☎06-4961-6507 FAX06-4961-6508
<http://www.jsise.org/>
E-mail:secretariat@jsise.org

ニュース・レター No.124

第28回全国大会プログラム

デジタル・ルネッサンスの教育環境の展開

～創造性を育む学習エコロジーの探究～

前号でお知らせしましたように、本会の第28回全国大会が8月30日(土)・31日(日)から開催されます。今号では、大会プログラムを掲載します。ご確認のうえお越しください。多数のご参加をお待ちしております。

開催日時：2003年8月30日(土)・31日(日)

場 所：茨城大学 水戸キャンパス

全国大会ホームページ <http://JSiSE2003.edu.ibaraki.ac.jp/>

◆8月29日(金) 前日ワークショップ

	テーマ1	テーマ2	テーマ3
15:00～18:00	eラーニングのスキルスタンダードと認定制度	情報教育、これからの展開	協調学習とシステムデザイン
	～インストラクショナルデザイン要素をどう入れていくか～		～ CSCL に足りないのは何? ～
	e-ラーニング技術委員会	情報教育特別委員会	

次ページへつづく



★ おねがい ★



8月20日を過ぎますと、「教育システム情報学会全国大会事務局」の郵便局払込取扱票でのお支払はできません。大会当日に受付にてお支払いいただくこととなります。事前払込にご協力をおねがいします。
論文集、懇親会費は、事前のお値段とは異なりますので、ご注意ください。

◆大会日程

8月30日(土) [第1日]

9:00~	受付							企業展示会
10:00~12:00	企画セッション TA 「学習コンテンツ・デザイン」 コーディネータ 仲林 清 (NTT-X) 松居辰則 (電気通信大学)	企画セッション TB 「シミュレーションの教育応用 -Virtual Reality、ゲームを含む-」 コーディネータ 磯本征雄 (岐阜聖徳大学) 野崎造成 (愛知教育大学)	企画セッション TC 「第二言語の学習支援-母語以外の文字・音声言語の習得を支援する方法とシステム-」 コーディネータ 伊藤紘二 (東京理科大学) 小西達裕 (静岡大学)	企画セッション TD 「高等教育におけるIT利用」 コーディネータ 黒瀬能事 (近畿大学) 渡辺成良 (電気通信大学)	企画セッション TE 「協調学習のための technology と pedagogy」 コーディネータ 米澤宣義 (工学院大学) 佐々木 整 (拓殖大学)	企画セッション TF 「情報教育と教師教育」 コーディネータ 松永公廣 (摂南大学) 関 友作 (茨城大学)	企画セッション TG 「e-Learning における標準化技術」 コーディネータ 伊藤健二 (ALIC) 田村恭久 (上智大学)	
	12:00~13:00	理事会						
13:30~14:00	総会							
14:00~15:00	基調講演 「e-Learning における世界の研究動向と新しい e-Pedagogy の探求」 電気通信大学大学院 岡本敏雄 (学会長)							
15:00~16:00	特別講演 「教育改革をめざした教育の情報化」 講師：文部科学省 生涯学習政策局 学習情報政策課課長 桑原 靖氏							
16:10~18:00	A1：一般講演	A2：一般講演	A3：一般講演	A4：一般講演	A5：一般講演	A6：一般講演	ポスター/デモセッション	
18:30~20:30	懇親会							

8月31日(日) [第2日]

9:00~	受付						企業展示会	
9:30~11:30	B1：一般講演	B2：一般講演	B3：一般講演	B4：一般講演	B5：一般講演	B6：一般講演		ポスター/デモセッション
11:30~13:00	昼食							
13:00~14:50	パネル討論会 「デジタル・ネットワーク社会における教育文化の革新～学習エコロジー(学習環境)のデザイン～」 モデレータ：福原美三(NTT-X) パネリスト：森川 治(産業技術総合研究所) 伊藤紘二(東京理科大学) 前迫孝憲(大阪大学)			パネル討論会 「情報教育元年～期待される情報科教員～」 モデレータ：清水康敬(国立教育政策研究所) パネリスト：正司和彦(兵庫教育大学) 本田敏明(茨城大学教育学部) 西野和典(大阪電気通信大学)				
	15:00~17:00	C1：一般講演	C2：一般講演	C3：一般講演	C4：一般講演	C5：一般講演		

講演プログラム

8月30日(土) 10:00~12:00 企画セッション

TA 学習コンテンツデザイン 第1会場(12番教室) 10:00~12:00
コーディネータ 仲林清(NTT-X)・松居辰則(電気通信大学)

TA-1 学習コンテンツ技術標準化の動向
○仲林清((株)NTT-X)

TA-2 教授戦略に基づいた学習コンテンツの系列下手法とその体系化
○松居辰則・関一也・岡本敏雄(電気通信大学大学院情報システム学研究所)

TA-3 学習コンテンツのインフォームド・ユースへ向けて
林雄介・池田満(北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科)・溝口理一郎(大阪大学産業科学研究所)

TA-4 インストラクショナルデザインによる効果的教育開発方法の紹介
内田実(日立電子サービス株式会社)

TA-5 ID 支援ツール UNIKIDSR の適用について
堀内淑子・田中信也(日本ユニシス・ラーニング株式会社)

TB シミュレーション –Virtual Reality, ゲームを含む– 第2会場(44番教室) 10:00~12:00
コーディネータ 磯本征雄(岐阜聖徳大学)・野崎浩成(愛知教育大学)

TB-1 初学者のための機械機構の動作理解支援システムの構築
○小林燃・小西達裕・伊東幸宏(静岡大学情報学部)

TB-2 電子会議システムを利用した擬似 Web 同期型マネジメントゲーム環境の構築
○樋川和伸(金沢学院大学基礎教育機構)・林有一(金沢学院大学経営情報学部)

TB-3 Web 上におけるデジタルコミックのマルチメディア化への一検討
○高田伸彦(金沢学院大学美術文化学部情報デザイン学科)

TB-4 Virtual City の自動生成システムとその活用
○杉原健一(岐阜経済大学経営学部経営情報学科)

TB-5 バレエ・レッスンのための 3DCG 振付シミュレーションシステムの開発
○曾我麻佐子(名古屋大学大学院人間情報学研究科)・海野敏(東洋大学社会学部)・安田孝美・横井茂樹(名古屋大学大学院情報科学研究科)

TB-6 伝統芸能の保存と継承のための情報デジタル技術の活用
○北川博美(中部学院大学短期大学部)・磯本征雄(岐阜聖徳学園大学経済情報学部)

TC 第二言語の学習支援 第3会場(45番教室) 10:00~12:00
コーディネータ 伊藤紘二(東京理科大学)・小西達裕(静岡大学)

TC-1 創造性を引き出す学習エコロジーを求めて –第二言語の学習支援ツール「コラボード」の開発
○山本裕一・西堀ゆり(北海道大学情報基盤センターメディア教育研究部門)・宮崎典行(北海道大学大学院工学研究科)

- TC-2** テレビ会議システムを介した遠隔の語学チュートリアル:第1回 WASEDA-FENU(ロシア)プログラムの実例から
○尹智鉉(早稲田大学大学院 日本語教育研究科)
- TC-3** ペン型反力デバイスを利用する体感型書き方学習システム
○稲見望(香川大学大学院工学研究科)・富永浩之(香川大学工学部)・松原行宏(広島市立大学情報科学部)・山崎敏範(香川大学工学部)
- TC-4** 漢字データベースの構築とその利用 -日本語学習の教材作成支援システムの設計-
○島田雅史(香川大学大学院工学研究科)・山下直子(香川大学教育学部)・富永浩之・松原行宏・山崎敏範(香川大学工学部)
- TC-5** 日本語教育における教材作成支援システム—マルチメディア型漢字データベースの利用—
○山下直子(香川大学教育学部)・島田雅史・富永浩之・山崎敏範(香川大学工学部)
- TC-6** 日本語対話訓練システムにおけるシチュエーション判定部の構築
○白鳥雄史・伊藤敏彦・小西達裕・近藤真・伊東幸宏(静岡大学情報学部)
- TC-7** 表現データベースをもつ日本語学習支援システムの提案
○掛川淳一・石川賢太郎・海野俊介・藤井雅弘・伊丹誠・伊藤紘二(東京理科大学基礎工学部)
- TC-8** 中級用マルチメディア日本語コースの開発とその活用方法
○石崎俊子(University of Leeds (UK))・ソレンセン和子(Royal Holloway, University of London)

TD 高等教育におけるIT利用 第4会場(46番教室) 10:00~12:00
コーディネータ 黒瀬能津(近畿大学)・渡辺成良(電気通信大学)

- TD-1** Webを利用したリアルタイム授業評価システムにおける入力端末の影響
○大塚一徳(長崎県立大学経済学部)・八尋剛規(東海大学福岡短期大学)
- TD-2** ドリル練習に基づくWeb型試験システム—情報基礎科目の運用事例とシステム評価—
○萩原秀和(香川大学大学院工学研究科)・富永浩之(香川大学工学部)・松原行宏(広島市立大学情報科学部)・山崎敏範(香川大学工学部)
- TD-3** Web型自発学習促進クラス授業支援システム(CEAS)の導入と評価
○辻昌之(関西大学大学院工学研究科管理工学専攻)・植木泰博(関西大学先端科学技術推進機構)・荒川雅裕・冬木正彦(関西大学工学部システムマネジメント工学科)・北村裕(関西大学外国語教育研究機構)
- TD-4** 誰でも使えるe-learning環境“mail-and-work”の構築
○川場隆(活水女子大学)
- TD-5** 大学における情報セキュリティポリシーの実施と情報教育
○山城新吾・森広浩一郎・正司和彦・長瀬久明(兵庫教育大学)
- TD-6** 聴覚障害学生向け動画字幕付与支援システムの開発と運用
○大倉孝昭(大谷女子大学文学部)
- TD-7** プロフェッショナルスキル養成のための映像記録協調学習システムの開発
○金子大輔(名古屋大学法政国際教育協力研究センター)・菅原郁夫(名古屋大学大学院法学研究科)
- TD-8** 広領域コラボレーションが生み出す高等教育の変革—国際高速回線による知識構築と新たな学習エコロジー創生—
○西堀ゆり(北海道大学情報基盤センター)・永岡慶三(メディア教育開発センター)・岡部成玄・山本裕一(北海道大学情報基盤センター)

TD-9 デジタル教材開発と支援組織

○立田ルミ(獨協大学経済学部)・中西家栄子(獨協大学外国語学部)

TE 協調学習のための technology と pedagogy

第5会場(第一講義室) 10:00~12:00

コーディネータ 米澤宣義(工学院大学)・佐々木整(拓殖大学)

TE-1 学習理論と協調学習設計・分析 ～テクノロジーによる媒介

○稲葉晶子(大阪大学産業科学研究所)

TE-2 遠隔地間の創発的分業を支援するシステムの開発と評価

○舟生日出男(茨城大学人文学部)・加藤浩(メディア教育開発センター研究開発部)・鈴木栄幸(茨城大学人文学部)

TE-3 議論支援のための好意的発言影響モデルの提案

○小谷哲郎・関一也・松居辰則・岡本敏雄(電気通信大学大学院情報システム学研究科)

TE-4 マルチユーザーサーバーを用いた同期型グループ学習システムの構築

米澤宣義・○山本浩司(工学院大学情報工学科)

TE-5 科学的情報編集能力を育む協調学習の提案 ―クローズ・システムを活用した未来想像の取り組み―

○小田切真(常葉学園大学教育学部)

TE-6 協調学習記述のためのメタモデル

○香山瑞恵(専修大学ネットワーク情報学部)・岡本敏雄(電気通信大学大学院情報システム学研究科)・井上智雄(国立情報学研究所)・田村恭久(上智大学理工学部)・宮寺庸造(東京学芸大学教育学部)

TF 情報教育と教員教育

第6会場(第二講義室) 10:00~12:00

コーディネータ 松永公廣(摂南大学)・関友作(茨城大学)

TF-1 情報教育の実態と教員研修

○二宮利江・本田敏明(茨城大学)

TF-2 情報教育における校内研修のあり方 ―誰もが児童に指導できる技術獲得をめざして―

○瀬尾正広(山ノ荘小学校)

TF-3 テレビ会議による遠隔共同学習のあり方

○山田岳男(潮来小学校)

TF-4 高等学校における「モデル化とシミュレーション」のための学習ツール開発

○下倉雅行・高橋参吉(大阪府立工業高等専門学校)・中野勝之(神戸市立兵庫商業高等学校)・正司和彦(兵庫教育大学)

TF-5 経営・商学系大学生の「プログラミング」についての意識の検討と、教授方法の改善について ―日本語 Squeak を使った高大一貫教育の試みより―

○築雅之・竹本宜弘(高崎商科大学流通情報学部)

TG e-Learning における標準化技術

第7会場(第三講義室) 10:00~12:00

コーディネータ 伊藤健二(ALIC)・田村恭久(上智大学)

- TG-1** テレビ会議システムを利用する海外中学校交流授業
 ○西田裕一(香川大学大学院工学研究科)・松原行宏(広島市立大学情報科学部)・富永浩之・山崎敏範(香川大学工学部)・日詰裕雄(香川大学教育学部附属高松中学校)・松下文夫(香川大学教育学部)
- TG-2** SCORM コンテンツの表現力に関する検討
 ○植木泰博(関西大学先端科学技術推進機構)・辻昌之(関西大学大学院工学研究科管理工学専攻)・荒川雅裕・冬木正彦(関西大学工学部システムマネジメント工学科)・北村裕(関西大学外国語教育研究機構)
- TG-3** コンピテンシー・モデルを反映させた学習オブジェクトの系列化手法に関する研究
 ○関一也・松居辰則・岡本敏雄(電気通信大学大学院情報システム学研究科)

8月30日(土) 14:00~15:00 基調講演

L1 基調講演 10 番教室 14:00~15:00

e-Learning における世界の研究動向と新しい e-Pedagogy の探求

岡本敏雄(電気通信大学大学院)

8月30日(土) 15:00~16:00 特別講演

L2 特別講演 10 番教室 15:00~16:00

教育改革をめざした教育の情報化

桑原靖(文部科学省 生涯学習政策局 学習情報政策課課長)

8月30日(土) 16:10~18:00 一般講演

A1 教育実践システム I 第1 会場(12 番教室) 16:10~18:00

- A1-1** 附属学校と大学との学術的交流の強化を目指した E-Learning 実験プロジェクト
 ○野崎浩成・江島徹郎・梅田恭子・高橋岳之・平田賢一(愛知教育大学教育学部)
- A1-2** テレビ会議システムを用いた教育大学と附属学校との連携の実践
 ○江島徹郎・梅田恭子・野崎浩成・高橋岳之・平田賢一(愛知教育大学教育学部)
- A1-3** 学校の生徒や保護者専用の Web ページシステムの開発と、それによる交流の実践
 ○江島徹郎・梅田恭子・野崎浩成・高橋岳之・平田賢一(愛知教育大学教育学部)
- A1-4** 学校の Web ページによる情報発信におけるリサイクルパソコンの導入
 ○梅田恭子・江島徹郎・野崎浩成・高橋岳之(愛知教育大学教育学部)・安田孝美(名古屋大学情報科学研究)・平田賢一(愛知教育大学教育学部)
- A1-5** SWMS を用いた中学校の追究旅行のための Web サイト作成とその実践
 ○梅田恭子・江島徹郎・野崎浩成・高橋岳之・平田賢一(愛知教育大学教育学部)

A2 生体・知覚情報 第2 会場(44 番教室) 16:10~18:00

- A2-1** 動作計測によるタイピング熟達度の解析
 対馬勝英(大阪電気通信大学大学院工学研究科情報工学専攻)・○長文彦(大阪電気通信大学大学院工学研究科情報工学専攻)

A2-2 音楽ゲームにおける入力デバイスと習熟
○植野雅之(大阪電気通信大学)・井町充晶・上月景正(コナミ株式会社)

A2-3 呈示応答型ゲームシミュレータの構築とプレイヤーの評価
上月景正・○井町充晶(コナミ株式会社)・植野雅之・対馬勝英(大阪電気通信大学)

A2-4 ビデオタブレット教育用手書き文字・図形入力新方式
○大月富博(香川大学大学院工学研究科)・松原行宏(広島市立大学情報科学部)・富永浩之・山崎敏範
(香川大学工学部)

A2-5 知覚に関する情報処理環境の変化
○金山茂雄(拓殖大学商学部(言語文化研究所, 理工学総合研究所))

A3 学習コンテンツ I 第3会場(45番教室) 16:10~18:00

A3-1 移動平均法と連環比率法による季節調整の学習システム
○荒深美和子(金城学院大学生活環境学部)・近藤仁(南山大学経済学部)・中村正治(金城学院大学生生活
環境学部)

A3-2 比較解析を用いた初等力学における発見学習の支援
○川口佳樹・中村学・岩根典之・大槻説乎・松原行宏(広島市立大学)

A3-3 パソコンに苦手意識を持つ人の判別とパソコン操作の特徴
○広瀬啓雄(諏訪東京理科大学経営情報学部経営情報学科)・難波和明(東京理科大学理工学部経営工
学科)

A3-4 音楽教本「コールユーブンゲン」のセルフ・トレーニング・プログラム
○荻原尚(武蔵野短期大学幼児教育学科)・木川裕(武蔵野短期大学国際教養学科)

A3-5 デジタル紙芝居を利用したプレゼンテーション教育
○輪嶋直幸・荻原尚(武蔵野短期大学幼児教育学科)・木川裕(武蔵野短期大学国際教養学科)

A3-6 没入型仮想現実環境を利用した体感型学習コンテンツの提案
○田畑慶人(京都医療技術短期大学)・井村誠孝(奈良先端科学技術大学院大学)・小塚淳(大阪大学基礎
工学科)・南広一・千原國宏(奈良先端科学技術大学院大学)

A4 知的インターフェース 第4会場(46番教室) 16:10~18:00

A4-1 ハイパー空間における主体的学習支援 -プログラミング&ナビゲーション-
○長谷川忍(北陸先端科学技術大学院大学情報科学センター)・柏原昭博(大阪大学産業科学研究所)

A4-2 CAI コンテンツ作成のためのオーサリングシステム、SMART と HyperCard の評価
○野中道三(大阪電気通信大学大学院工学研究科情報工学専攻)・対馬勝英(大阪電気通信大学総合情
報学部デジタルゲーム学科)

A4-3 CyberGlove と FASTRAK を用いた 3 次元 LOGO ブラウザ TRINITY の構築
対馬勝英(大阪電気通信大学総合情報学部)・岩本晟 ○大島芳文・山本祐樹(大阪電気通信大学大学院
工学研究科)

- A4-4** 音声対話を用いたかけ算九九学習支援システムの試作
○江頭広幸(佐賀大学大学院工学系研究科)・岡崎泰久・渡辺健次・近藤弘樹(佐賀大学理工学部)
- A4-5** 視線によるシナリオ自動選択システムの構築
○前田知宏(大阪電気通信大学大学院)・対馬勝英(大阪電気通信大学)
- A4-6** 問題解決協調学習支援システムの開発
○長谷川啓行・金子浩史・松田久之・出羽哲也・三原栄輔・伊丹誠・伊藤紘二(東京理科大学基礎工学部)
-
- A5 プログラミング教育** 第5会場(第一講義室) 16:10~18:00
-

- A5-1** 再帰構造の枠組みに基づく Prolog プログラムの診断
○谷口鉄平(九州工業大学大学院情報工学研究科)・平嶋宗・竹内章(九州工業大学情報工学部)
- A5-2** 文系学生に対するプログラミング教育の役割
○江上邦博(千葉経済大学短期大学部)
- A5-3** リテラシ教育に於ける初歩的プログラミングの必要性に関する一考察
○渡部綾子・宮本勉・大橋けい子(嘉悦大学短期大学部)
- A5-4** Ruby による一般プログラミング教育
○布施泉・岡部成玄(北海道大学情報基盤センター)
- A5-5** 初等プログラミング教育における組み込みコード品質検証ツールの試験的活用
○秋川友宏・伊藤敏彦・坂根裕・新谷誠・小西達裕・伊東幸宏(静岡大学)
- A5-6** 音声再生機能を持つ英語学習ノートシステムの試作
○中村宏・秋葉裕司(東京理科大学大学院基礎工学研究科)・佐藤晃・伊丹誠・伊藤紘二(東京理科大学基礎工学部)
-

A6 遠隔学習 I 第6会場(第二講義室) 16:10~18:00

- A6-1** NICER における用語検索支援システムの開発
○清水康敬・岩田裕美・榎本聡(国立教育政策研究所)
- A6-2** 高品質動画転送システムを用いた教育実習の改善(1) 遠隔授業参観・遠隔授業反省会における画質の検討
○藤木卓・森田裕介(長崎大学教育学部)
- A6-3** 高品質動画転送システムを用いた教育実習の改善(2) 遠隔授業参観・遠隔授業反省会の有用性の検討
○森田裕介・藤木卓(長崎大学教育学部)
- A6-4** 電子会議システムを利用した遠隔授業実践の一考察
樋川和伸(金沢学院大学基礎教育機構)・○岡田政則・中西一夫(金沢学院大学経営情報学部)・松本則久(北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科)
- A6-5** 在宅における自習支援のための e-learning 教材の設計
○林敏浩・林田行雄(佐賀大学理工学部)
- A6-6** 高精細映像を利用した板書型遠隔授業の到達点
○渡辺健次・林敏浩・角規彦・大谷誠・田中久治・岡崎泰久・林田行雄・近藤弘樹(佐賀大学)

8月31日(日) 9:30~11:30 一般講演

B1 情報教育 I

第1会場(12番教室) 9:30~11:30

- B1-1 高等教育入門期における情報倫理教育のカリキュラム開発
○齋藤裕美(湘南国際女子短期大学)・田中喜美(東京学芸大学)
- B1-2 教科「情報」の情報倫理教育コンテンツ・学習者意識の質的構造化
○山口晴久・笠井俊信(岡山大学教育学部)
- B1-3 大学新入生のインターネット活用における問題行為に対する情報倫理の意識と特徴
○野口紳一郎(龍谷大学理工学部)
- B1-4 IT環境における大学生に必要な情報リテラシーの研究
○新長章典(京都学園大学経営学部経営学科)・手越義昭(広島工業大学環境学部環境デザイン学科)
- B1-5 オンライン・コンピュータテスト(OCT)におけるリアルタイム情報技術教育の実験・実施ー法政大学教学改革・定量的経済学部門ー
後藤公彦・○林賢太郎(法政大学応用経済研究室)
- B1-6 Comprehensible Output Supporting Listening Ability Training in a Web CALL Environment
Jin Chen, Kazuya Seki, Toshio Okamoto(The Graduate School of Information Systems, the University of Electro-Communications)

B2 教育方法・評価

第2会場(44番教室) 9:30~11:30

- B2-1 新教科「情報」における高大連携の試み
○高原尚志(富士常葉大学)
- B2-2 コンピュータ実習室における超低周波電磁界対策
○大崎正幸(名古屋文理大学)
- B2-3 ビデオデータを用いた質的評価抽出の試み-マーカートラッキングを用いた幼児音楽の指導支援-
新谷公朗(常磐会短期大学幼児教育科)○金田重郎(同志社大学大学院工学研究科)
- B2-4 知的財産訴訟の現状と大学教育
○木川裕(武蔵野短期大学国際教養学科)
- B2-5 事例を交えた PC による統計学教育
○年森敦子(鎌倉女子大学児童学部)・松下孝太郎(鎌倉女子大学家政学部)・馬場裕(横浜国立大学教育人間科学部)
- B2-6 学生の就職行動(1)ー戦前期の一学校の就職指導データによるー
○李東彦・安留誠吾・吉川博史・寺本光雄(太成学院大学)

B3 学習コンテンツ II

第3会場(45番教室) 9:30~11:30

- B3-1 教材構造モデルに基づく Web 教材のメタデータの半自動付与と学習支援システムへの適用
○長谷川仁美(電気通信大学情報システム学研究科)・野中和幸(NTT ソフトウェア)・関一也・松居辰則・岡本敏雄(電気通信大学情報システム学研究科)

- B3-2** 公開型 Web 教材データベースにおけるコンテンツ管理エージェント
○佐藤大樹・石川孝(日本工業大学)
- B3-3** 高専の情報基礎科目における Web Base Tranig 教材の開発とその有効性について
布施雅彦(福島工業高等専門学校)・○大原麗偉(埼玉大学教養学部)・湊淳・小澤哲(茨城大学)
- B3-4** SVGを用いた Web でのプログラム学習
○高井健一(香川大学大学院工学研究科)・香川考司・垂水浩幸(香川大学工学部)
- B3-5** 簡単な講義収録方法による VOD 教材の作成と使用事例
○山本芳人(東京理科大学理学部第一部教養学科)
- B3-6** 動作の理解と機器実習を組み合わせた e-Learning 教材の開発とその評価
○鬼頭強・相澤哲也・山田保(日立電子サービス(株))・山本洋雄(信州大学)

B4 知的学習支援 I

第 4 会場(46 番教室) 9:30~11:30

- B4-1** CAI オーサリングシステム SMART の拡張
対馬勝英(大阪電気通信大学大学院工学研究科情報工学専攻教授)・○山本博己(大阪電気通信大学
大学院工学研究科情報工学専攻)
- B4-2** CG を利用した幼児学習用ソフトウェアの試作
○周欣欣(名古屋文理大学情報文化学部情報文化学科)・松本哲也(名古屋大学情報科学研究科)
- B4-3** 学習内在型ゲーム作成法の定式化の試み
○梅津孝信(九州工業大学大学院情報工学研究科)・平嶋宗・竹内章(九州工業大学情報工学部)
- B4-4** 仮想実験環境のメタデータ
○山根伸平(九州工業大学 大学院 情報工学研究科)・國近秀信・平嶋宗・竹内章(九州工業大学 情報
工学部)
- B4-5** 力学を対象とした概念モデル構築支援環境
○東本崇仁(九州工業大学大学院情報工学研究科)・平嶋宗・竹内章(九州工業大学情報工学部)
- B4-6** 協調学習事例共有のための事例ベースシステムの開発～協調学習における学習者間相互作用の記述～
○井上久祥(上越教育大学学校教育総合研究センター)

B5 Web 利用

第 5 会場(第一講義室) 9:30~11:30

- B5-1** 授業用 Web サイトの構成要素に関する検討
○岩崎日出夫(北海道東海大学情報教育センター)
- B5-2** ネットワーク環境に対応した学習システムの開発による衛星画像の教育利用
○浅井文男(奈良工業高等専門学校)
- B5-3** インターネットを利用した高大連携教育
○高原尚志(富士常葉大学)
- B5-4** 教材ウェブサービスの共有・再利用を支援する UDDI レジストリシステム
○越智洋司(近畿大学理工学部)・脇田里子(福井大学留学生センター)・矢野米雄(徳島大学工学部)

B5-5 学習者による教材の再構成を可能にする学習環境の設計・開発

○松田瑞生(九州工業大学大学院情報工学研究科)・平嶋宗・竹内章(九州工業大学情報工学部)

B5-6 協調学習を活用した僻地教育

○永當伸治・林田雅裕(日立造船情報システム)

B6 協調学習 I

第 6 会場(第二講義室) 9:30~11:30

B6-1 政策系学部における電子掲示板を活用した協調型グループプロジェクト学習の試み

○中條道雄(関西学院大学総合政策学部)

B6-2 情報技術演習への協調学習導入の試み-ペア・チームによるコミュニケーションを重視した情報技術演習-

○新谷公朗(常磐会短期大学幼児教育科)・高橋一夫(同志社大学大学院総合政策研究科)・田端矢一郎(常磐会学園大学国際コミュニケーション学部)

B6-3 テレビ会議交流を利用した卒業研究に関するプレゼンテーション

○宮地功(岡山理科大学)・成瀬喜則(富山商船高等専門学校)・吉田幸二(倉敷芸術科学大学)

B6-4 ネットワークでの情報共有を用いた仕事場学習支援システムの開発

○松本馨・平田謙次(学校法人産業能率大学)・高岡良行(東光精機株式会社)

B6-5 理工系大学院における統合型 e-Learning による講義配信の実践と評価

○岡本敏雄・松居辰則・関一也(電気通信大学 大学院情報システム学研究科)・井上久祥(上越教育大学 学校教育総合研究センター)・香山瑞恵(専修大学)

B6-6 新入社員のコンピュータリテラシ・レベルの動向とその側面

○山口定夫(筑波女子大学, 関東学院大学)

8 月 31 日(日) 15:00~17:00 一般講演

C1 教育実践システム II

第 2 会場(44 番教室) 15:00~17:00

C1-1 シミュレーション利用した教授・学習における支援(2) - 献立作成の場合 -

深津智恵美(園田女子大学)○松永公廣(摂南大学)

C1-2 小学校における PDA・GPS を用いた取材活動の実践と評価

○安川直樹・大崎智弘・長谷川直人・守屋和幸・酒井徹朗(京都大学大学院情報学研究科)

C1-3 職業教育における技能評価システム構築の模索

○生方俊典(東京都立航空工業高等専門学校)

C1-4 異なるシステムポリシー環境下でのアカウント一元管理システムの構築

○梶田定子・田春子(名古屋市立大学大学院経済学研究科)

C1-5 電子メール利用の学習過程のための電子メール配送制御システムの開発

○渡辺健次(佐賀大学)・相森豊徳(佐銀コンピュータサービス(株))

C1-6 指導計画に基づきデジタル指導書を利用する授業教材作成

○井上智雄・重野寛・岡田謙一(国立情報学研究所)

C2 情報教育 II第 2 会場(44 番教室) 15:00~17:00

- C2-1** 教育メディア研究へのメタフェ論からのアプローチ
○西端律子・菅井勝雄・香川順子・趙蘊宏(大阪大学大学院人間科学研究科)
- C2-2** リサイクルPCを用いたクラスルームサーバの構築とその可能性
○立岩佑一郎(名古屋大学人間情報学研究科)・遠藤守(中京大学情報科学部メディア科学科)・安田孝美・横井茂樹(名古屋大学情報科学研究科)
- C2-3** プレゼンテーションにおける評価方法 -録画ビデオを用いた分析方法の提案-
○垣東弘一・山本恒(園田学園女子大学)
- C2-4** 情報教育と授業評価
布施泉 ○岡部成玄(北海道大学情報基盤センター)
- C2-5** 相互行為の理論に基づく互恵的コミュニティの形成支援-コミュニティ・インキュベーターのコンセプト-
○鈴木栄幸・舟生日出男(茨城大学)
- C2-6** 多声コメント活動を取り入れたプレゼンテーション教育
○鈴木栄幸・舟生日出男(茨城大学)・吉野志保(早稲田大学)・望月俊男(総合研究大学院大学)・加藤浩(メディア教育開発センター)

C3 知的学習支援II 第 3 会場(45 番教室) 15:00~17:00

- C3-1** 教授エージェント間協調のための対話目的の抽出とプロトコルの設計
○鷹岡亮(山口大学教育学部)・新脇尋子(小田億株式会社)・岡本敏雄(電気通信大学大学院情報システム学研究科)
- C3-2** Web におけるメタナビゲーション空間のデザイン
○小西信宏・柏原昭博・沼尾正行(大阪大学産業科学研究所)
- C3-3** 数式の階層構造を反映した木構造の導入とその差異を利用した式変形過程認識システムの開発
○岡崎泰久・近藤弘樹(佐賀大学理工学部知能情報システム学科)
- C3-4** 学習過程の振り返りをサポートする支援方法の提案と実装
○行本諭・林勝義・小西達裕・伊東幸宏(静岡大学情報学部)
- C3-5** 協調場実現のための API
○香山瑞恵(専修大学ネットワーク情報学部)・岡本敏雄(電気通信大学大学院情報システム学研究科)
- C3-6** 電子会議室の発言分析に基づいた教師による協調学習評価の可能性
○望月俊男(総合研究大学院大学文化科学研究科, メディア教育開発センター)・藤谷哲(目白大学経営学部)・一色裕里(東京大学大学院学際情報学府)・山内祐平(東京大学大学院情報学環)・加藤浩(総合研究大学院大学文化科学研究科, メディア教育開発センター)

C4 協調学習 II

第 4 会場(46 番教室) 15:00~

17:00

- C4-1** XML による年表データ検索配布について
○林良雄(秋田大学教育文化学部)

- C4-2 e-learning における協調学習を行うための仕組みを持たしたシステム開発について
○宇治典貞・堀田博史・小田桐良一・吉崎弘一・山本恒(園田学園女子大学)
- C4-3 U-Learning の理論的考察とその開発方法論
○西之園晴夫(佛教大学学習開発研究所)
- C4-4 e-learning で臨場感のある授業を行うための工夫ーリアルタイムによるサポートの試みー
○山本恒・遠本真希・廣瀬舞(園田学園女子大学)
- C4-5 実技学習支援のための対話的注釈機能を持った動画資料提示型会合システム
○富永浩之・田村卓矢・山崎敏範(香川大学工学部)
- C4-6 創造性を育む外国語教育エコロジーを求めてー協調学習が創り出すグローバル・ネットワークと教授法の変革ー
○西堀ゆり(北海道大学情報基盤センター)

C5 遠隔学習II 第5会場(第一講義室) 15:00~17:00

- C5-1 フィードバック制御理論に基づいた学習支援システムにおける学習特性とPIDパラメタ
○村瀬孝宏(中京短期大学)・磯本征雄(岐阜聖徳学園大学)
- C5-2 Flash を用いた e ラーニング教材の開発と運用
○吉崎弘一(園田学園女子大学情報コミュニケーション学科)
- C5-3 ガンマ分布による WBT 所要時間データのオンライン解析システム
○植野真臣(長岡技術科学大学)
- C5-4 プログラミング教育のための学習履歴データベースサーバの構築
○高橋参吉・下倉雅行(大阪府立工業高等専門学校)・若林茂(神戸市立工業高等専門学校)・松永公廣(摂南大学)
- C5-5 2進演算系における初学者向けの負数導入方法
○福岡久雄(松江工業高等専門学校 情報工学科)・和田雄次(東京電機大学 情報環境学部)
- C5-6 WWW を用いた漢字学習環境のための DB システムの構築
○林敏浩・林田行雄(佐賀大学理工学部)

C6 マルチメディア利用 第6会場(第二講義室) 15:00~17:00

- C6-1 映像アノテーションによる講義映像を用いたマルチメディア教材オーサリング
○阿倍博信(三菱電機株式会社情報技術総合研究所)・濱谷英次(武庫川女子大学情報教育研究センター)
- C6-2 マルチメディア演習としてのゲーム制作
○榊井猛・梶木克則(甲子園大学経営情報学部)
- C6-3 構内の 3D 景観作成を題材としたマルチメディア演習
○梶木克則・榊井猛(甲子園大学経営情報学部)
- C6-4 日本語教育における体系論的教授法
○李穎清(城西国際大学大学院)・平澤洋一(城西大学女子短期大学部)

C6-5 WBTを用いた技術教育の評価分析

辻達之(九州工業大学)・渋井二三男(城西大学)

C6-6 大学生の情報倫理意識の階層化について

○三浦一城・吉岡茂・山下倫範(立正大学地球環境科学部)

8月31日(日) 9:30~11:30 ポスター/デモセッション

PD ポスター/デモセッション

第7,8会場(第三,第四講義室) 9:30~11:30

PD-1 「心理学」のためのマルチメディア教材とその復習問題の作成

加藤良子・大島直廣・松本真(中央学院大学)

PD-2 語句選択を支援する句構造情報を利用した用例検索ツール SOUP

三好康夫(徳島大学大学院工学研究科)・越智洋司(近畿大学理工学部)・金西計英(徳島大学高度情報化基盤センター)・岡本竜(高知大学理学部)・矢野米雄(徳島大学工学部)

PD-3 科学的情報編集能力を育む協調学習の提案 ―クノス・システムを活用した未来想像の取り組み―

小田切真(常葉学園大学教育学部)・宮之原立久(編集工学研究所)・平野雅彦(情報意匠研究所)

PD-4 音楽教育のためのセルフトレーニングプログラム

荻原尚(武蔵野短期大学幼児教育学科)・木川裕(武蔵野短期大学国際教養学科)

PD-5 発見・探求学習に利用できるヴァーチャルリアリティとマルチメディアを使った資料館サイトの開発

布施雅彦(福島工業高等専門学校)・○大河原麗偉(埼玉大学教養学部)・横山大輔(富士通 S&S)・湊淳・小澤哲(茨城大学)

PD-6 ひとりから大学全体まですぐに使える e-learning 環境

川場隆(活水女子大学)

PD-7 授業用 Web サイトの一例

岩崎日出夫・上瀧實(北海道東海大学情報教育センター)

PD-8 e-Learning 進捗システムにおける観点別評価 ～保健の授業

初山隆裕・鈴木一秀(神奈川県立深沢高等学校)・はが弘明(デジタルナレッジ社)

教育システム情報学会

第 29 回通常総会開催通知

会 員 各位

教育システム情報学会

会 長 岡本 敏雄

教育システム情報学会の本年度通常総会を下記のとおり開催いたします。万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席いただけない方は、同封の「委任状」を同封の返信用封筒で、本部事務局へ8月25日までにご送付ください。

記

- 1 , 開催日時 2002 年 8 月 30 日 (土) 13 : 30 ~ 14 : 00
- 2 , 開催場所 茨城大学 水戸キャンパス (茨城県水戸市文京 2 丁目 1 番 1 号)
- 3 , 議 案
第一号議案 2002 年度活動報告に関する件
第二号議案 2002 年度決算報告および監査報告に関する件
第三号議案 2003 年度活動計画案に関する件
第四号議案 2003 年度予算案に関する件
第五号議案 役員等の改選に関する件

議案は当日変更・追加もあることを、あらかじめご了承ください。

参加費:無料

e-ラーニング技術委員会主催 前日ワークショップ開催のご案内

日 時：平成 15 年 8 月 29 日（金）15:00～18:00

会 場：茨城大学教育学部 共通教育棟 11 番教室

テーマ：eラーニングのスキルスタンダードと認定制度

～インストラクショナルデザイン要素をどう入れていくか～

-----ワークショッププログラム-----
15:00～15:05 開会挨拶 eラーニング技術委員会委員長 小松秀圀（NTT L S）

- 1) 15:05～15:45 eラーニングとID：集中講義の構想と認定制度
鈴木 克明（岩手県立大学）
eラーニングにIDが果たすべき役割について、IDの動向も含めて概観する。
- 2) 15:45～16:05 スキルスタンダードの概要とIDの位置づけ
西岡 佳津子（日立製作所）
IDが共通スキルであるがゆえに入りにくい現状を報告する。
- 3) 16:05～16:25 認定制度：アメリカ型かヨーロッパ型か
小松 秀圀（NTT L S）
欧米の事例を紹介し、日本にあてはめたとときの長短を検討する
- 4) 16:45～17:55 討 議
IDの要素を入れたスタンダードと認定制度について参加者の意見を
集約して連動の可能性や課題を整理する。
- 5) 17:55～18:00 閉会挨拶
19:00～21:00 懇親会（参加希望者のみ：会費 3,000 円、当日持参）

ワークショップへの参加ご希望の方は、「参加申込」をクリックし、お申込ください。

申込〆切：8月28日（木）

前日ワークショップ開催のご案内

日時：2003年8月29日（金） 15：00～18：00

会場：茨城大学教育学部 共通教育棟

テーマ：情報教育、これからの展開

趣旨：本年4月から、高等学校普通科では普通教科「情報」の授業が開始されている。この教科「情報」は新教科であり、カリキュラムや教育方法の研究とともに、適切な評価についての研究と実践が求められている。主催の科研プロジェクトは、平成14年度に標記のような課題で研究を行ったが、その研究成果を本ワークショップで報告する。

特に、大学入試センター試験に関しては、平成18年度の実施は見送られたが、今後導入が予想される。その場合、どのような問題が適切であるかについて、ワークショップの参加者と意見を交換し、議論を深めたい。

主催：情報教育特別委員会 / 科研「高校普通教科「情報」における学習活動の評価観点・基準の整理と体系化」研究プロジェクト

-----ワークショッププログラム-----
15：00～15：05 開会挨拶

第1部

高等学校教科「情報」の学習評価を考える

－センター試験実施に向けて－

15：05～15：25

教科「情報」の内容に沿った評価の観点

西野和典（大阪電気通信大学）

15：25～16：30

公開討論

教科「情報」を大学入試にどう取り入れるか

－センター試験への導入および模擬問題の提案－

司会：高橋参吉（大阪府立高専）

第2部

情報教育の推進について

16：40～18：00

情報教育特別委員会としてまとめた「情報教育推進のための提言書」およびその資料編をたたき台に、次の5項目について司会者が問題を提起し、参加者全員による自由討論を行います。

- 1．情報教育の教育内容
- 2．カリキュラム編成と学習指導法
- 3．情報教育担当教員養成と研修プログラム
- 4．情報教育のための基盤整備
- 5．財源および振興策

司会：磯本征雄（岐阜聖徳学園大学）

18：00 閉会のあいさつ

磯本征雄（岐阜聖徳学園大学）

前日ワークショップ開催のご案内

日 時：2003年8月29日（金）15：00～17：30

会 場：茨城大学 共通教育棟44番教室（水戸キャンパス）

テーマ：協調学習とシステムデザイン CSCL に足りないのは何？

趣 旨：人間の協調活動を如何に支援するかという試みが活発に行われるようになってから、既に10年が経過している。本ワークショップでは、研究・開発がどこまで進んでいるかを概観し、課題や新たなチャレンジを参加者とともに模索したいと考える。話題提供者を関連3分野（社会心理学、教育工学、インストラクショナルデザイン）から迎え、それぞれの視点から検討する。

ワークショッププログラム

15：00 ワorkshop開催の趣旨説明

15：10～15：40

協調活動の効果と知識の創発・流通
畦地真太郎（朝日大学）

15：40～16：10

CSCL システムのデザイン
楠 房子（多摩美術大学）

16：10～16：40

協調学習とインストラクショナルデザイン
青木和彦（日本 IBM 研修サービス）

16：40～17：30

総合討論：CSCL の今後に向けて
～ 研究・システム開発は何を頑張ればよいのか？ ～
司会：稲葉晶子（大阪大学産業科学研究所）

17：30 閉会

2004年7月発行号掲載

特集論文募集

締め切り：2003年11月1日

テーマ：学習科学と学習 / 教育支援システム

主旨

学習 / 教育支援システムに関する研究において、人間の学習や認知・行動についてのモデルや理論は、システムの設計・開発の基盤であり、また、その研究の目標や成果を位置付けたり、発展性を示す上で重要な役割を果たします。本論文特集では、学習 / 教育支援システムを指向した「人間の学習」についての理論的・実践的研究、および基盤となる「人間の学習」についてのモデルや理論を明示的に示した上で行われている様々な学習 / 教育支援システムに関する研究を幅広く募集します。本論文特集は、「人間の学習」を研究対象とする学習科学と、ITを基盤とした「人間の学習」の補助・促進を目指す学習 / 教育支援システムに関する研究の突りある融合を目指して企画されたものです。これらの融合を現実のものとしている研究はもちろん、目指している、あるいはつながってゆくという観点での研究も歓迎いたします。ぜひ、将来を見据えた上での積極的な投稿をお願いいたします。

対象分野

学習科学と学習 / 教育支援システムの融合を見据えた様々な理論的・実践的研究を募集します。本論文特集は、将来的な融合への契機となることを目的としており、現時点での融合は必ずしも条件としていません。将来に向かって何らかの可能性が含まれていれば十分であるとしていますので、将来を見据えての積極的な投稿をお願いいたします。具体的なキーワードとしては次のようなものを挙げるができますが、これらに限りません。

知的学習支援システム、学習科学、認知モデル、協調学習 / グループ学習、CSCL、ヒューマンインタフェース、人工知能、学習者モデル、エージェント、ILE(Interactive Learning Environment)、ナビゲーション、WWW、インターネット、オーサリング、バーチャルリアリティ、ハイパーメディア、マルチメディア、知的CAI/ITS、シミュレーション環境

論文種別

原著論文、ショートノート、実践論文、実践速報を募集します。なお、査読の結果により、異なる種別での採録になることがあります。また、編集委員会の判断により、特集ではなく一般投稿論文としての採録とさせていただくことがあります。

投稿要領

一般の論文投稿規程に準じます。投稿に際しては、原稿の1ページ目および封筒に「学習科学と学習 / 教育システム」と朱書きしてください。

スケジュール

投稿締め切り：2003年11月1日

掲載予定：2004年7月1日発行の学会誌

問い合わせ・原稿送付先

教育システム情報学会事務局

〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1

Tel : 06-4961-6507 Fax : 06-4961-6508

園田学園女子大学 情報教育センター内

E mail : secretariat@jsise.org

■ 教員公募 ■

近畿大学工学部 情報システム工学科

1. 募集人員 助教授（大学院を担当可能な方）もしくは講師
2. 所属学科 近畿大学工学部情報システム工学科
3. 担当科目 情報技術関連科目，実習，演習
4. 専門分野 情報システム工学分野
5. 着任時期 2004年4月1日
6. 応募資格 博士の学位を有し，専門分野の研究業績があり，教育研究に熱意があり，教育経験が2年以上の方で35歳以下が望ましい。
7. 応募期限 2003年8月30日（土）必着
8. 提出書類 各1部
 - (1) 履歴書
 - (2) 研究業績一覧（著書，学術論文，国際会議論文・シンポジウム，その他に分けて記載）
 - (3) 主要論文別刷り（コピー可）
 - (4) 現在までの研究概要（A4用紙1枚程度）
 - (5) 着任後の研究計画および情報システム工学教育に対する抱負（各A4用紙1枚程度）
 - (6) 意見をお伺いできる方2名の連絡先
9. 送付先（応募書類は簡易書留とし，封筒の表に「教員応募書類」と朱書きのこと）

〒739-2116 東広島市高屋うめの辺1番
近畿大学工学部 工学部長 杉山一夫宛
10. 問い合わせ先

〒739-2116 東広島市高屋うめの辺1番
近畿大学工学部情報システム工学科
学科長 黒瀬 能幸（くろせ よしのぶ）
Tel. (0824) 34-7000 (Ext.873)
Fax. (0824) 34-7011
E-Mail kurose@hiro.kindai.ac.jp

その他 書類審査で選考するが，必要な場合には面接をさせていただくことがあります
ことをあらかじめご承知おきください。

■ 教員公募 ■

九州工業大学 情報工学部

2. 所属，職名および人員 情報工学部共通講座（注釈1） 助教授 1名
3. 専門分野 情報科学全般あるいは情報教育に関連する研究
4. 担当職務 教育における主たる担当科目は，本学部全5学科に共通の教職課程（注釈2）の「教職に関する専門教育科目」のうち，教科教育法（情報） および ですが，学部共通の科目の担当をして頂く場合もあります．また，教職課程運営委員会の一員として活動していただくことが期待されます．
研究に関しては，独自にあるいは学内・学外の研究者と共同で自由に進めることができます．また，卒業研究生や大学院学生（博士前期・後期課程）の教育研究指導も可能です．
5. 応募資格
 - (1) 情報科学の教育研究に積極的に取り組む意欲のある方．
 - (2) 教職課程の専任教員として教科教育法（情報） および の設置審査基準を満たす実績，業績のある方（注釈3）．
6. 採用予定日 採用決定後のできるだけ早い時期(遅くとも，平成16年4月1日)．
7. 提出書類
 - (1) 履歴書（写真貼付）．取得免許・資格等も明記すること
 - (2) 研究業績リスト（注釈4）
 - (3) 主要論文の別刷りまたはコピー 5編程度
 - (4) 現在までの情報教育の経験を示す資料．
 - (5) 教育に関する抱負（2000字以内）
 - (6) 現在までの研究概要および研究の抱負（2000字以内）
 - (7) 応募者についての所見を求め得る方2名の氏名・連絡先
 - (8) 推薦者のある場合はその推薦書．
8. 応募締め切り 平成15年9月30日（火） 必着
9. 書類提出先 〒820-8502 福岡県飯塚市川津680-4
及び照会先 九州工業大学情報工学部 教科教育法（情報）助教授
人事選考委員長 児玉 孝雄
TEL：0948-29-7815 E-mail:kodama@bse.kyutech.ac.jp
10. その他
 - (1) 選考の過程で，面接を行うことがあります．
 - (2) 書類はA4判用紙に横書き，項目毎に別葉とし，封筒表面に「教官応募」と朱書き，書留で送付して下さい．
 - (3) 注釈についてはお問い合わせ下さい．

■ 教員公募 ■

九州工業大学 情報工学部

公募人員 e-ラーニング担当助手 (学部長付き)1 名

専門分野 学習支援システムやグループウェアなど, マルチメディアを活用し、ネットワークを介したコミュニケーションやコラボレーションの支援システムに関する実践的研究

応募〳切 2003 年 9 月 30 日必着 2004 年 1 月 1 日以降着任

詳細情報 <http://www.iizuka.kyutech.ac.jp> の「教官公募」をご参照ください。

問 合 先 820-8502 福岡県飯塚市川津 680-4 九州工業大学 (情報工学部)

学部長 小林 史典

tel: 0948-29-7505 fax: 0948-29-7517

e-mail: koba@ces.kyutech.ac.jp

2003 年度第 3 回研究会 発表募集延長のお知らせ

テーマ: 第二言語の学習支援

-- 母国語以外の文字・音声言語の習得を支援
する方法とシステム --

担当: 言語・知識処理応用研究部会
部会長 / 伊藤 紘二

下記のとおり、発表申し込み、並びに原稿送付の期限を延長いたしますので、ふるって、ご発表の申し込みをお願いいたします。言語・知識処理応用研究部会は、学習をコミュニケーションと見る視点から、インターフェイスも含めて、従来の形にとられない言語教育、あるいは、言語や知識の取り扱いを取り入れた学習・教育支援システムの研究を、いろいろな分野から学びながら、活性化していくことを目指しています。これまでに 3 回の研究会を開催いたしました。2003 年度は研究委員会のもとでの担当で、下記の通り、研究会を開催します。つきましては、奮ってご応募くださるようお願い申し上げます。

日 時: 2003 年 9 月 27 日 (土)

会 場: 九州工業大学情報工学部 (福岡県飯塚市)

テーマ: 第二言語の学習支援

--母語以外の文字・音声言語の習得を支援する方法とシステム --

次ページへつづく

内 容 :

特別講演 :

対話支援型問題解決のための文脈情報処理
遠藤 勉 (九州工業大学情報工学部知能情報工学科)

一般発表 : (現時点までに受け付けたものを掲載します)

X M L による漢字データベースの構築とその利用

-日本語学習の教材作成支援システムの設計-

島田雅史 (香川大学大学院工学研究科), 山下直子 (香川大学教育学部),
富永浩之, 松原行宏, 山崎敏範 (香川大学工学部)

大学授業と連携したネットワーク型中国語単語学習支援システムの構築

Feng He Yang, 許山秀樹, 小西達裕, 伊東幸宏 (静岡大学)

比較による表現法獲得を支援する第二言語学習支援システムの提案

掛川淳一, 石川賢太郎, 海野俊介, 藤井雅弘, 伊丹 誠, 伊藤紘二 (東京理科大学)

英語長文読解学習のための適応的出題制御

国近秀信, 宇留島稔, 平嶋宗, 竹内章 (九州工業大学)

現在, 募集延長中です。今回の主なテーマは, 第二言語の学習支援ですが, 言語処理, 知識処理, 知的インターフェイスに関する研究発表を受け付けています。

なお, 研究会終了後, 懇親会を予定しています。こちらも是非ご参加下さい(会費 3,000 円程度の予定)。

問い合わせ先 (担当幹事) :

国近秀信

九州工業大学情報工学部

〒820-8502 福岡県飯塚市川津 680-4 phone: 0948-29-7930, fax: 0948-29-7601

E-mail: kunitika@minnie.ai.kyutech.ac.jp

研究発表募集

申込締切: 2003 年 8 月 18 日 (月)

原稿締切: 2003 年 9 月 8 日 (月) (原稿は 2 P から 6 P の偶数ページで)

下記のフォームで担当幹事までメールでお申し込みください。

発表タイトル:

著者・所属:

発表概要 (数行程度)

著者連絡先:

原稿ページ数 (2, 4, 6 のいずれか) :

特にこの部会では, 従来形態の研究会より一歩ふみこんだ研究者間の交流の場の形成を最大の主眼にしております。

詳しくは, <http://www.itlb.te.noda.sut.ac.jp/~itoh/nlkp/nlkp.html> をご覧ください (JSiSE のホームページからもリンクされています)。

ご意見等ございましたら itoh@te.noda.sut.ac.jp 宛にメールをいただければ幸いです。

新入会員の紹介

新入会員（敬称略）

JSiSE-A0302022	荒川 智之	（学）菊武学園 菊華高等学校	正会員
JSiSE-A0302023	三浦 一城	立正大学	準会員
JSiSE-A0302024	太田 伸幸	愛知工業大学	正会員
JSiSE-A0302026	寺田 佳子	株式会社ジェイ・キャスト	正会員
JSiSE-A0302025	吉田 典弘	相模女子大学	正会員
JSiSE-A0302027	小松 泰信	京都精華大学	正会員
JSiSE-A0302028	根本 浩史	（株）日本能率協会マネジメントセンター	正会員
JSiSE-A0302029	金子 大輔	名古屋大学	正会員
JSiSE-A0302030	小山 貴明	信州大学	準会員
JSiSE-A0302031	松本 馨	（学）産業能率大学	正会員
JSiSE-A0302032	李 東彦	太成学院大学	正会員
JSiSE-A0302033	柴田 晋吾	コンパック株式会社	正会員
JSiSE-A0302034	神崎 謙一	岡山大学	正会員
JSiSE-A0302035	大月 富博	香川大学大学院	準会員
JSiSE-A0302036	大野 晋	立命館大学大学院	準会員
JSiSE-A0302037	福岡 久雄	松江工業高等専門学校	正会員
JSiSE-A0302038	Oivind Horn	インターレクト（株）	正会員
JSiSE-A0302039	齋藤 裕	早稲田大学	正会員
JSiSE-A0302040	原田 哲也	東京理科大学	正会員
JSiSE-A0302041	尹 智鉉	早稲田大学	準会員
JSiSE-A0302042	金川 明弘	岡山県立大学	正会員
JSiSE-A0302043	山本 裕一	北海道大学	正会員

（2003年5月21日～2003年7月20日）

国際会議の案内

国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡下さい。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

本案内はWWW

(<http://www.fu.is.saga-u.ac.jp/~hayashijisise/conf.htm>) で見ることがもできます。

新着情報 5 件

WISICT 04: Winter International Symposium on Information

and Communication Technologies

開催日程: 2004 年 1 月 5-8 日

開催地: Hyatt Regency, Cancun, Mexico

論文応募締切: 2003 年 8 月 1 日

URL: <http://www.wisict.org>

e-mail: info@wisict.org

SITE 2004: Annual Conference of the Society for Information

Technology and Teacher Education

開催日程: 2004 年 3 月 1-6 日

主催: AACE

開催地: Atlanta, Georgia, USA

論文応募締切: 2002 年 10 月 15 日

URL: <http://www.aace.org/conf/default.htm>

e-mail: conf@aace.org

WMTE 2003: Second IEEE International Workshop on Wireless

and Mobile Technologies in Education

開催日程: 2004 年 3 月 23-25 日(postponed)

主催: IEEE

開催地: National Central University, JungLi, Taiwan

論文応募締切: 2003 年 9 月 15 日

URL: <http://lutf.ieee.org/wmte2003/>

IEEE Virtual Reality 2004 conference

開催日程: 2004 年 3 月 27-31 日

主催: IEEE

開催地: Chicago, Illinois, USA

論文応募締切: 2003 年 9 月 1 日

URL: <http://www.vr2004.org>

E-Learn 2004: World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, & Higher Education

開催日程: 2004 年 11 月 2-6 日

主催: AACE

開催地: Washington, DC, USA

論文応募締切: 未定

URL: <http://www.aace.org/conf/default.htm>

e-mail: conf@aace.org

再掲載情報 1 件

ED-Media 2004: World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia and Telecommunications

開催日程: 2004 年 6 月 21-24 日

主催: AACE

開催地: Lugano, Switzerland

論文応募締切: 未定

URL: <http://www.aace.org/conf/default.htm>

e-mail: conf@aace.org

国際会議案内文責 松原 行宏 (広島市立大学)

E-mail: matsubar@its.hiroshima-cu.ac.jp

第 88 回 理事会・評議会 議事録

日時：2003年5月24日(土)17時30分～19時30分

場所：アルカディア市ヶ谷(東京,私学会館)

出席者：理事

岡本敏雄,磯本征雄(委任状),小松秀園,赤堀侃司(委任状),伊藤紘二,大槻説乎,大下眞次郎,上月景正(委任状),坂元 昂(委任状),清水康敬,菅井勝雄,竹内 章,対馬勝英,永野和男,永岡慶三,樋川和伸,溝口理一郎(委任状),矢野米雄,渡辺成良,山本 恒,

欠席者：

出席者：監事

小荒井順,今栄国晴(委任状)

出席者：評議員

家本 修,渋井二三男,西野和典,前迫孝憲,山崎敏範

欠席者：評議員

石桁正士,奥田富蔵,黒瀬能幸,向後千春,高橋参吉,竹本宜弘,平嶋 宗,福原美三,細井秀樹,松永公廣,三輪和久,村本 紘,横山節雄,吉田 覚,米澤宣義

：事務局

山本

：その他

田村,関(記録)

配布資料

- + 資料1: JSiSE 第88回理事会・評議会
- + 資料2: 理事・監事・評議員の選挙に関する件(別紙資料1)
- + 資料3: 理事の定数に関する件(別紙資料2)
- + 資料4: 優秀論文賞に関する件(別紙資料3)
- + 資料5: 日独ワークショップのご案内(別紙資料4)
- + 資料6: SCS 特別講義「eラーニング」
- + 資料7: 学会誌原稿執筆要領

議事

0) 第87回理事会・評議会議事録の確認：

- + 山本事務局長より,資料1のpp.1-2に基づき,前回の理事会・評議会の議事が確認された。

1) 新入会員の承認：

- + 山本事務局長より,資料1のpp.3-4に基づき,新入会員の説明があり,承認された。
- + 岡本会長より,本学会の会員数が増加傾向にあることが報告された。
- + 山本事務局長より,準会員の会費負担が大きい為,会費を下げるなどの対応も必要であるとの意見が示された。

2) 全国大会(茨城大会)に関する件：

- + 菅井理事より,資料1のpp.4-5に基づき,全国大会に関する説明がなされた。

次ページへつづく

- 特別講演のタイトルおよび講師，パネル討論会Ⅰ，Ⅱのタイトルおよびパネリストが確認された．永岡先生（メディア教育開発センター）が日程的に参加困難である為，パネル討論会Ⅰのパネリストを1名変更する必要があるとの報告がなされた．パネリストの選定は菅井大会企画委員長に一任されることになった．
- パネル討論会Ⅰ，Ⅱに指定討論者を追加するとの報告がなされた．そして，パネル討論会Ⅰには米澤先生（工学院大学），パネル討論会Ⅱには樋川先生（金沢学院大学）が指名され，承認された．
- 大会前日，自主プログラム（ワークショップ）が開発されるとの報告がなされた．
- 大会第一日の企画セッション（8月30日10時～12時）に，企画セッションGとして「e-Learningにおける標準化技術」を追加するとの報告がなされた．
- 発表・参加申し込みの修正がなされ，発表申込〆切：2003年6月20日（金），事前参加申込〆切：2003年8月15日（金）になる旨の報告がなされた．

3)理事・監事・評議員の選挙に関する件：

- + 菅井理事（選挙管理委員）より，資料2に基づき，2003年新任役員・評議員の選挙に関する説明がなされた．
- + 山本事務局長より，「役員等候補者名簿作成に関する細則」に従って，役員・評議員投票用紙が作成されたとの報告がなされた
- + 大槻理事より，役員・評議員投票用紙に“順不同”の一文を付記する必要があるとの指摘がなされ，付記することが承認された．

4)広報活動におけるWebページの利用の件：

- + 対馬理事より，資料1のpp.6に基づき，本学会の広報活動におけるWebページの利用に関する説明がなされた．
- + 山本事務局長より，WWWの広報活動における現状の問題点が指摘された．
- + 岡本会長より，本学会のオフィシャルなWWWサーバの設置に向け，技術的な事項を含め，運用管理に関する諸事項を検討して欲しいとの依頼がなされた．また，広報委員会をWWW委員会と改称し，本学会の広報活動とWWWサーバの運用管理を行うことが提案された．

5)理事の定数に関する件：

- + 矢野理事より，資料3に基づき，理事の定数に関する説明がなされた．
- + 岡本会長より，理事，評議員の増員の必要性和重要性が示された．
- + 学会規約第59条に従って，理事の定数を21名から25名，評議員の定数を20名から24名と規約を改正することが承認された．
- + 学会規約第25条に従って，理事の増員（任期2年(2)，任期4年(2)）と評議員の増員（任期2年(2名)，任期4年(2名)）を選任することが確認された．
- + 理事・評議員の増員に伴う補欠選挙等の案内を次号のニューズレターに掲載することが確認された．

6)優秀論文賞に関する件：

- + 永野理事より，資料4に基づき，優秀論文賞に関する説明がなされた．
- 全国大会前の理事会・評議会（7月開催）で推薦された優秀論文賞を審議することが確認された．

7)英文誌編集委員会の設置に関する件：

- + 伊藤理事より，英文誌編集委員会の設置に関する説明がなされた．

次ページへつづく

-英文誌編集委員会の委員が報告された。

- ・委員長：伊藤（東京理科大学）
- ・副委員長：伊東（静岡大学）
- ・幹事：松居（電気通信大学）、田村（上智大学）

+ 伊藤理事より、Vol.2の論文投稿締切りが6月30日まで延長した旨の報告がなされた。

+ 岡本会長より、Vol.1の残部を国内外の研究者に送付して欲しいとの依頼がなされた。

8)各委員会からの審議事項及び報告事項：

+ 各委員会の担当理事および評議員より、資料1のpp.7-8に基づき、活動報告がなされた。

-編集委員会

- ・竹内理事より、資料1のpp.7-8と資料7に基づき、編集委員会の活動報告がなされた。
- ・竹内理事より、掲載論文の転載に関わる著作権について、本学会も検討する必要があるとの意見が示された。
- ・竹内理事より、学会誌の発刊作業で、幹事が校正作業を行う現状を見直す必要があるとの意見が示された。

-情報教育特別委員会

- ・岡本会長より、資料1のpp.8に基づき、情報教育特別委員会の活動報告がなされた。
- ・“情報教育促進のための提言書”の印刷出版について、種々の意見交換を行った結果、会長、副会長預かりで処理することが承認された。

-e-Learning 技術委員会

- ・小松副会長より、e-Learning 技術委員会の活動報告がなされた。
- ・資料6に基づき、SCS 特別講義「eラーニング」の概要が示された。
- ・企業内教育部会（平成15年5月30日、青山学院）が開催される旨の報告がなされた。

-企画委員会

- ・渡辺理事より、資料5に基づき、日独ワークショップの案内が示された。
- ・日独ワークショップの案内をニューズレターに掲載することが確認された。

9)その他：

+ 山本事務局長より、資料1のpp.9に基づき、第19期日本学術会議会員の資格認定と、科学技術教育関連学協会連合の運営委員の変更について報告がなされた。

2003年度第1回研究報告

【企業内教育研究部会】

研究報告書購入ご希望の方は、日本学会事務センター事業部・海外部（学協会刊行物頒布業務）まで、TEL（03-5814-5811）、FAX（03-5814-5822）Eメール（sub@bcasj.or.jp）でお申し込みください。

1部1,300円（送料共）です。残部切れの際はご容赦ください。

なお、JSiSE 会員で「研究報告」の年間購読（購読料は送料込みで年間4,000円）をご希望の方は JSiSE 事務局 TEL（06-4961-6507）、Eメール（secretariat@jsise.org）までご連絡ください（年間6回）。この際、ぜひ購読されますようおすすめいたします（教育システム情報学会研究会委員会担当 / 伊藤紘二）。



- ・開催日：2003年5月30日
- ・場所：青山学院大学総合研究所

1. 教育システム工学サーベイ 2002 - 2003

君島浩（防衛庁）

教育システム工学に関する私の最近の見聞を紹介する。企業内教育の研究・実践に取り組んでいる人へ先端情報を提供する。また、このサーベイは初めて企業内教育に取り組む人にも参考になるだろう。

2. e-ラーニング技術の標準化動向

仲林清（NTT-X）

Learning の普及とともに技術標準化の活動が活発に進められている。コンテンツ、学習者情報、学習体系情報の相互互換性のための技術規格は概ね確立し、標準化活動は対象とする技術をより高度化・広範囲化する方向で進められている。高度化の具体例として、学習者の習得状態に適応した動的な教材シーケンシングを可能とする SCORM1.3 が発表された。

3. 教授方略に基づく学習課題の系列化手法

- 数理モデルに基づく手法の体系化と事例 -

松居辰則（電気通信大学）

e-learning の普及、発展によりインストラクショナルデザイン手法などの学習コンテンツの設計手法への重要性が見直されている。教育工学分野では、授業設計を主な対象として数理モデルに基づく学習課題の系列化手法が研究され、様々な知

見が蓄積されてきている。そこでは、学習項目間の関係（先行関係・難易度など）を数値化し、ある解釈において準最適な教授項目の系列を構成するための手法が開発されている。本稿では、数理モデルに基づく様々な系列化手法の特徴や特性を整理し、系列化手法の体系化を試みる。また、学習コンテンツ設計手法への適用、適応的な学習支援システムへの実装の実例を示しながら、系列化手法の応用の可能性について述べる。

4. e-Learning における学習オブジェクトの系列化手法

関一也・松居辰則・岡本敏雄（電気通信大学）

本研究の目的は、情報の粒度や表現形式の異なる多種多様な学習オブジェクトを学習オブジェクト・メタデータによって管理し、学習者毎に適した学習オブジェクト系列の下で学習オブジェクトを利用できる機能を実現することである。学習オブジェクト系列は、学習オブジェクト・メタデータ、学習者の学習ニーズ、学習履歴情報、学習対象に関するパラメータ情報から生成する。具体的には、多目的最適化問題の最適化手法を学習オブジェクトの系列化手法に適用し、複数の評価観点を同時に満足する学習オブジェクト系列を求める。本稿では、系列化手法を詳述し、学習オブジェクトの系列化機能を具備した e-Learning システムの評価を述べる。

5. インストラクショナルデザインに重点をおいた集中講義「e-ラーニング基礎論」の内容と方法

鈴木克明（岩手県立大学）、三石 大（東北大学）、波多野和彦（NIME）、小松秀園（NTTラーニングシステムズ）

e-ラーニング基礎理論としてのインストラクショナルデザインの内容整理と教材化を目的とした研究の初期段階で構想している大学院レベルの集中講義「e-ラーニング基礎論」の内容と方法について概観した。実習中心のスキル先行アプローチではなく、知識先行のアプローチを採用して、15コマの内容と5日間のテーマをまとめた。また、効果的で魅力的な集中講義とするために、評価計画の明示、基礎知識の文脈への位置づけ、SCS講義以外の情報提示、Web上での学習活動、メンター&ピア、認定制度などの教授方略を採用する計画について述べた。

6. インストラクショナルデザイン技法 UNIKIDSの適用とツールの活用

堀内淑子・田中信也(日本ユニシス・ラーニング)

インストラクショナルデザインの有効性が説かれながら普及しない原因として、実施の手間がかかること、何をどのようにするべきかの規定をする物が存在しないことが挙げられる。UNIKIDS技法はコンテンツを生成するツールを備えることで、品質の向上と開発工数の低減を実現している。

7. インストラクショナルデザインによる効果的教育開発方法の紹介

内田実(日立電子サービス)

IT技術の進歩により、従来の教育では実施できなかったような色々な教育方法を採用可能となってきた。しかし、従来のベテラン教員による職人芸のような教育開発では、ITを含む新しい技術を駆使した教育は開発できなくなってきた。このような教育開発はさまざまな技術を持った人員を集めて組織的に行う必要がある。教育を科学的に調査、分析して、短期間で効率的かつ効果的に学習者、所属組織、社会のニーズに適う人材を養成する組織的な方法としてインストラクショナルデザインがある。本稿はこのインストラクショナルデザインによる効果的教育開発方法を紹介する。

8. EML-SCORM メタデータ変換ツールの試作

田村恭久・矢野亜希子(上智大学)

eラーニングの教材構造を表現する標準規格 SCORM Version 1.2 と、オランダ OpenUniversity で開発された EML を比較分析し、これらで記述された教材の変換ツールを試作

した。これらの規格は、インターネット上での教材の流通・互換性を保証するため、XMLでの記述仕様(バイnding)を規定している。そこで、両者の XML データタイプ定義を比較分析し、SCORM XMLでの教材記述を EML XMLでの教材記述に変換するツールを Java で開発した。比較分析により、両規格の教材に対する概念構造の共通点や相違点が明らかになった。

9. 相互運用性を考慮したアセスメントデザイン

石打智美・永津昭人(NTTデータ)

ラーニングの普及に伴い、学習効果や学習コンテンツの品質の向上が求められている。そのためには、その eラーニングにおいて学習効果の指標を明確化し、その指標を容易に確認できる必要がある。本稿では、アセスメントの目的と機能を分類し、コンテンツ中のテストの役割を明確化する。そして目標と一致したコンテンツ設計のためのアセスメントデザインと、その相互運用性を考慮したシステムデザインについて考察する。

10. オブジェクトモデルを用いた授業設計の提案

江見圭司(金沢工科大学), 矢島彰(大阪国際大学), 田中規久雄(大阪大学), 中條道雄(関西学院大学)

最近、ソフトウェア開発者の間で、「オブジェクト指向」が注目をされている。オブジェクト指向プログラミングそのものに関心が高まっているのではなく、上流工程の段階でのクラスの設計に注目が集まっているのである。クラスを図解で表す方法は種々あり、最もはやりつつあるのは UML である。本稿は UMLでの初歩概念で授業計画そのものを記述することを提案する。

11. 学習コンテンツデザインへのオントロジー工学的アプローチ

- 学習支援と学習コンテンツデザイン支援 -

林 雄介・池田 満(北陸先端科学技術大学院大学), 溝口理一郎(大阪大学)

学習コンテンツに関わる活動として、学習者の学習活動と学習コンテンツデザイナーの学習コンテンツデザイン活動が挙げられる。本研究では、その二つの活動を支援対象とし、その関係を検討しながら、支援システムのデザイン指針をオントロ

ジー工学的に検討することに関心を持っている。本稿では特に(1)支援システムのデザイナーと、支援される人の共有理解の概念的基盤の必要性(2)両者の仲立ちとして共有理解を支えるうえでの支援システムの役割の二つの技術的課題について、本研究での基本的な考え方を整理し、その具体例を提示する。

12. 放送技術を切り口とした双方向型 Web 教材

佐々木信之・大墳 聡 (群馬高専),
頼則絢太 (コンピュータ教育研究所)

高専のような初期高等教育向けの技術教材として、双方向型の Web 教材を開発した。この教材の特徴は、オーソドックスな教科書の形体を避け、各種信号処理技術が実際どのように使われているかを、放送技術の切り口で解説するとともに、演習問題に該当する箇所を Java のアプレットにより、ブラウザとの双方向で模擬実験ができるようにし、さらに模擬実験の内容自体を、サーバの管理の下でユーザが自由に追加変更できるようにした点である。これにより、学生は活きた技術をあたかも実際の機器を動かして実験するような形で勉強でき、さらに教材自体をユーザが増殖させていくことができる。

13. e ラーニングにおけるメンタリングメールの学習効果について

香山裕子・堀井俊洋・戸田博人 (富士通ラーニングメディア), 波多野和彦 (NIME)

一般的に e ラーニングにおけるメンタリングとして、企業内教育においては特定条件の学習者に対して定型メールを送信する方法が多く用いられている。今回、モチベーションの持続と学習目標の理解達成度に対してより効果のあるメンタリング方法を模索するため、複数グループの学習者に対して、それぞれ異なるメンタリング方法を適用し、その差異を比較調査した結果、学習者の進捗状況に応じてパーソナライズしたメンタリング方法がもっとも高い学習効果が見られた。

14. 動的視覚化法による教育技法について

浪平博人 (大妻女子大学)

In spite of the long trend of decrease in

scholarships, few effective educational methodology are proposed. This paper treats a new methodology for education of logical contents.

First, two defects concerning the conventional education are pointed out. Next, a great delivery efficiency of visualized information is studied, and new methodology using "dynamic visualization" is constructed to overcome these defects. Examples applied for several fields are presented. Through the actual application, we confirm the effectiveness of the method in the delivery of meaning of logical contents.

15. e-Learning における品質保証の観点

平田謙次 (産業能率大学)

昨今 e-Learning における品質保証への要求が高まっている。本稿では、ISO9000、QAI や CMM などに取り上げられている品質保証の基本的な考え方を整理した上で、e-Learning における品質保証を議論していく上での観点をしめしていく。